

平成26年度 第3回四街道市クリーンセンター運営協議会会議録（概要）

日時 平成27年2月17日（火）13時30分～15時00分

場所 クリーンセンター会議室

出席者 大山長七郎会長 中川和義副会長 小川克己委員 梅澤省三委員
小川治秀委員 荒木紀子委員 篠原忠廣委員 村上安子委員
吉良忠委員

事務局出席者 杉山環境経済部長 林環境経済部次長 小出クリーンセンター長
宇田廃棄物対策課長 鈴木環境政策課長 丸山主査 櫻井主任主事

傍聴人 1人

—— 会議次第 ——

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
 - (1) 平成26年度上半期ごみ処理状況について
 - (2) 平成26年度上半期環境測定調査結果について
 - (3) その他
4. 閉会

議事発言要旨

(1) 平成26年度上半期ごみ処理状況について

篠原委員：資料について。この資料では単年の数値についてしかわからず、近年の傾向等が視覚的にわからない。グラフ等を用いて近年の推移等がわかるような資料にして欲しい。

事務局：平成27年度第1回の協議会資料より作成したい。

大山会長：過去どの位の年数の推移で作成する予定なのか。

事務局：過去3年くらいで考えている。

梅澤委員：資料について。本日資料を受け取ったが、数日前でも良いので事前にいただくことは可能か。事前に目を通した方が質問等しやすいと思う。

大山会長：事務局はグラフの導入と併せて資料の事前配布についても検討して欲しい。

中川副会長：草木類について。4月から12月まで同じような減り方をしている。何か理由があるのか。

事務局：一概に理由とはならないかもしれないが、ここ最近の傾向として高齢化が進んでいるため、伐採の回数を減らすために庭木をまとめて伐採する方が多かったが、それが落ち着いたことが要因としてあるのではないか。

中川副会長：収集のやり方が変わったということはあるのか。

事務局：収集のやり方は特に変わっていない。

中川副会長：伐採の回数を減らしたことによって、ここまで変わるものなのか。

事務局：原因は様々あるので今申し上げたことが原因の全てではないが、要因の一つではないか。搬入量が減っていることも要因としてあると思う。

梅澤委員：炉の運転状況について。表を見ると1号炉・2号炉どちらかは完全に休止しているが、炉の状態を良好に保つには休ませた方が良いのか、連続して稼働させた方が良いのか教えてほしい。

事務局：当市の炉の形態は流動床炉であるが、この炉はごみを焼却しなければ温度が下がる等良好な運転状態を維持できない。現在のごみの搬入量等を考えると1炉ずつの運転の方が良好な運転状態を維持できると思う。現在は2か月毎に炉を入れ替えて運転しているが、休止させている間に炉内清掃等のメンテナンスを行っている。

梅澤委員：私の聞いたところによると、こういった炉は稼働したり休止したりするよりはずっと動かしていた方がよいとのことであったので質問をしたが、実際はどうか。

事務局：流動床炉はごみの量がある程度ないと安定した運転ができないので、現在の運転方法を採用している。

(2) 平成26年度上半期環境測定調査結果について

吉良委員：環境測定結果について。測定値について問題がないことはわかったが、クリーンセンターとして数字には表れないような内部的課題はあるのか。

事務局：以前からごみの減量化については最終処分場を持たない等の理由から取り組んできているが、今後とも取り組んでいきたいと考えている。

吉良委員：特に内部的課題はないということか。

事務局：収集についてであるが、ここ最近収集した廃棄物の中に注射器等の医療系廃棄物が混入していることが多くなってきている。

大山会長：市民が家庭で使用しているものが出ているということか。そういうものは出さないように広報等で知らせる必要があるのではないか。

事務局：広報等で周知はしているが、なかなか改善されないという現状である。

梅澤委員：市民が家庭で使用しているものが出ているということだが、具体的にどの

ようなものが出ているのか。

事務局：注射器や注射針等本来であれば医療系廃棄物として処理されるべきものが集積所に出されている。

梅澤委員：例えばどのような病気の方が使用するのか。

事務局：インスリン注射を家庭で摂取する糖尿病の方等が考えられる。

大山会長：病院等から出る医療系廃棄物については適正な処理方法で処理されていることから、やはり個人の家庭にうまく周知されていないことが原因なのではないか。

村上委員：そのような医療系廃棄物がクリーンセンターに入ってきてしまった場合、どのように対応しているのか。

事務局：細かく砕いて民間業者に処理を依頼している。

大山会長：それは分別のラインで取り出して破砕するということか。

事務局：作業員に感染のおそれもあるので慎重に行っている。

篠原委員：分別ガイドブックには医療系廃棄物のことについて載っていないのか。

事務局：医療系廃棄物については、ここ最近急激に増えてきているため現行のガイドブックには載せていない。医療系廃棄物の廃棄方法については病院等で指導していると思うが、市の対応としては次回ガイドブック印刷の際に検討したい。

村上委員：分別ガイドブックの内容はずいぶん古いように思う。ごみの内容も昔とは随分変わってきていると思うので、分別ガイドブックのリニューアルも必要ではないか。

事務局：次の改訂で表紙等も含めリニューアル等を検討していきたい。

村上委員：具体的な改訂の予定はあるのか。

事務局：具体的な予定はないが、早めの対応を検討したい。

村上委員：是非、子供達もわかりやすいようなリニューアルを早めをお願いしたい。

中川副会長：医療系廃棄物を特定した形で収集運搬する場合は、専用の収集運搬車を用意する必要がある。家庭用であれ医療系廃棄物を分別して集積所へ出すようにした場合には、通常の収集車で収集ではなく専用の収集車を用意しなければいけない。そういったことも踏まえた上で対策を練っていかなければ、思わぬ形で問題が大きくなってしまうように思う。

梅澤委員：このような問題は四街道市だけが抱えている問題ではなく、他市も同様の問題を抱えていると思う。他市の対策も参考にしながら広報等に工夫を加えていく必要があるのではないか。

大山会長：専門の病院は所定のルートが守られていると思うので、家庭用に対策の重点を絞っていくことが良いのではないか。

小川治秀委員：騒音の測定結果について。一部協定値を上回っている原因が高速道路の騒音

であるということだが、北向きの風によって騒音が流れてきているように思う。夏場に行った測定結果はあるのか。

事務局：測定は年1回しか行っていないため、夏場の測定結果はない。

小川治秀委員：夏場は風が南向きなので高速道路の騒音が軽減されるように思うが、夏場に測定することはできないのか。

事務局：ここ最近は何年冬場に測定している。夏場は蛙の声などが外部騒音の原因となってしまうため、一概に夏場が測定に適しているとは言い難い面もある。

中川副会長：測定結果全体としては問題なくよく管理していると思うが、基本的なことを確認したい。今使っている焼却炉の耐用年数はどのくらいと考えているのか、併せてこれまで何回改修を行っているか。また、一日あたりの焼却能力・焼却能力に対する稼働率はどのくらいであるか、新しい委員の方はまだわからない方もいると思うので教えていただきたい。

事務局：焼却炉のみで考えた場合、こちらの炉は平成4年に稼働した後平成20・21年に改修工事を行っていることから、おおよそ15年程度で考えている。単純に焼却炉のみの次回の改修時期ということになると平成35年くらいには改修が必ではないか。能力については、1炉あたり82.5トンあり現在は1炉交互運転で1日あたり65トン程度処理しているので、1炉あたりの稼働率は80%程度である。

篠原委員：20・21年度の工事内容はどのようなものか。

事務局：炉の更新を行った。骨組みは残したが、外側の鉄板と耐火物を更新した。

篠原委員：同じ形式の炉であれば、15年後に同じ工事を行えば引き続き使用することができるということか。

事務局：設備は炉だけではないので他の設備の更新も必要になるが、交換が必要な設備を更新すれば使用できる。

中川副会長：焼却するごみの量が極端に増えたり炉の形式等を変更しようとしたりしない限り、設備の更新を行えば引き続き使用することができるということである。

梅澤委員：炉の寿命もあるが、建物の寿命もあると思う。この建物もそろそろ限界なのではないか。

事務局：先程は炉の話が中心となったが、当施設は建物も含め焼却施設だけで13種類の設備機器がある。他の清掃工場を参考にするとおおよそ30年から40年程度で閉鎖する施設が多い。これはランニングコストが新設よりかかってくるため、お金をかければさらに稼働を続けることも可能である。

梅澤委員：こちらの建物はどうか。

事務局：メンテナンスは必要であるが、少なくともあと10年から20年は使用可能である。

梅澤委員：国が定める耐用年数はどのくらいであるか。

事務局：国が定める耐用年数は特にはない。他市の清掃工場は長くても40年程度で閉鎖している。

篠原委員：ダイオキシン測定値について。今までの値と比べて半分以下に下がっているが何か理由はあるのか。以前から議題に挙がっているサンプリング技術の問題なのか、それ以外の理由なのか。

事務局：今年度はメーカーと協議を行い、まず保守点検に併せて活性炭吹き込み装置の点検を行ったが特に異常はなかったため、他にどのような問題が考えられるか様々なデータを確認して検証を行った結果、活性炭の銘柄を代えるという結論に至った。今年度の5月28日の測定結果は以前の銘柄のものであるが、10月17日と12月15日は活性炭の銘柄を代えて測定した結果、数値が下がった。来年度以降はこちらの銘柄を使用していきたいと思う。

篠原委員：数値が下がったのは活性炭の効果と考えているということか。

事務局：そのように考えている。

篠原委員：活性炭だけでそこまで違うものなのか。

事務局：以前の銘柄も他施設で特に問題なく使用されている銘柄なので一概に悪い銘柄であるとは言えないが、設備と活性炭の相性というものがあるようで、今回導入した活性炭は当施設と相性が良いものとする。

篠原委員：値段は以前の銘柄より高くなるのか。

事務局：銘柄を選定するにあたっては値段ではなく、性能試験等を行って当施設に合うかどうかで選定している。来年度は銘柄を一本に絞る予定である。

篠原委員：測定業者は1者入札で選定しているのか。

事務局：指名競争入札で選定している。

中川副会長：この問題は難しい問題である。建設当時のこの施設の規制値は5ナノであったと思うが、平成20年・21年の改修工事によって1ナノになったため、以前よりも規制値を守るための努力が必要になった。そのような中で現状の数値はよく管理していると思う。ダイオキシンの測定値はナノグラムという大変小さな単位ではあるが、当然規制値をオーバーすれば実際に実害がなくとも大きな問題となってしまうので、今回活性炭の銘柄を変えて数値が下がったのは一安心である。

篠原委員：ダイオキシンの規制値はどのように定められているのか。

事務局：建設の時期や一日の焼却量によって規制値は異なるが、四街道市の規制値は同等の建設時期・規模の施設の中では一番厳しい規制値である。

篠原委員：この間見学をした成田の施設の規制値はどのくらいか。

事務局：1ナノであると思う。

篠原委員：成田の施設のダイオキシン測定値は当施設と比べると相当低かったと思うが、規制値は当施設と同じということか。

中川副会長：当施設の現在の規制値は本来成田の施設のような最新鋭の施設に適用されるものであるが、平成20年度・21年度の改修工事で炉を入れ替えたことによって最新鋭の施設並みの規制値となってしまった。ダイオキシンの規制は十数年前から行われているが、規制前からある施設には規制後に設置された施設よりも緩やかな規制値が定められている。四街道市の場合は、炉をほぼ入れ替えたことで規制後に設置された施設と同様の規制を求められるようになってしまった。

梅澤委員：過去の協議会でダイオキシンの測定業者に問題がある旨の発言があったと思うが、現在はどうか。

事務局：現在は実績のある指名業者による指名競争入札により業者を選定しているので、特に問題はないと考えている。

梅澤委員：入札は毎年行われているのか。

事務局：毎年行われている。

梅澤委員：業者が毎年変わる可能性があるというのは不安ではないか。

事務局：実績のある業者を指名しているので特に問題はないと考えている。

梅澤委員：この協議会は2年に1回メンバーが代わると思う。先日成田の施設は見学したが当施設はまだ見学していないので、当施設の見学も必要ではないかと思う。そういう機会は作っていただけないか。

事務局：来年度以降検討したい。

(3) その他

来年度の協議会開催予定時期について事務局より報告。